

## 第8回トキの野生復帰に向けた川づくりアドバイザー会議概要

■開催日時：令和7年11月26日(水) 13:00~15:20

■開催場所：トキ交流会館大ホール（新潟県佐渡市新穂潟上 1101-1）

■アドバイザー出席者（五十音順、◎は座長、※はオンライン参加、敬称略）

氏名	所属	専門分野
尾崎 清明※	公益財団法人山階鳥類研究所 副所長	生態学(鳥類)
島谷 幸宏※	熊本県立大学 特別教授	河川工学・河川環境
◎関島 恒夫	新潟大学農学部農学科 教授	動物生態学
中村 圭吾	国立研究開発法人土木研究所 流域水環境研究グループ長	河川環境、生態工学
陸 旻皎	長岡技術科学大学環境社会基盤工学分野 教授	河川工学

### ■議事（天王川自然再生事業）

- 1 これまでの取組と工事工程
- 2 モニタリングの目的と事後調査期間
- 3 モニタリングの評価方針
- 4 モニタリングの調査手法と評価基準
- 5 今後の予定



### ■会議の概要

今回のアドバイザー会議では、天王川自然再生事業のこれまでの取り組みや工事の進捗状況を確認した上で、モニタリングの目的、期間、評価方針、調査手法および評価基準について、アドバイザーから意見・助言をいただきました。



■県からの説明概要

議 事	説明概要
1 天王川の自然再生事業～これまでの取組と工事工程～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回会議の報告として、これまでの流況解析やモニタリングの内容について紹介した。</li> <li>・ 令和元年度までの工事で、下流の沈砂池及び上流の左右岸湿地の暫定掘削が完了している。また、令和6年度までの工事で、新河道における護岸設置及び河床材料の入れ替えが完了している。</li> <li>・ 令和7年度末までに河道切り替えが完了し、令和8年度からは沈砂池及び左右岸湿地の掘削、旧河道の埋戻しを行う予定である。</li> </ul>
2 天王川の自然再生事業～モニタリングの目的と事後調査期間～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モニタリングの目的は、工事実施後の環境への影響を評価し、その結果を維持管理にフィードバックすることである。</li> <li>・ 事後モニタリングの開始時期は、一部を除き各工事完了後とし、河道に関しては令和8年度以降、湿地に関しては令和10年度以降の予定である。</li> <li>・ モニタリング実施期間は、令和14年までを基本とし、それ以降は必要に応じて実施する。</li> </ul>
3 天王川の自然再生事業～モニタリングの評価方針～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モニタリングの評価ポイントとして、以下の3点を設定した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①トキの採餌環境、餌生物の生息環境が整っているか</li> <li>②トキの餌生物が豊富に生息しているか</li> <li>③ホタルなど良好な河川環境を象徴する多様な水生生物が生息しているか</li> </ul> </li> <li>・ 河道切り替えや湿地の創出等が、各生物や植生にどのような影響を与えるかを評価し、最終的に生態系ピラミッドの上位に位置するトキの利用につながっていると判断されれば、事業の目的が達成されたことになる。</li> </ul>
4 天王川の自然再生事業～モニタリングの調査手法と評価基準～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モニタリングを行う各項目の調査期間、調査方法、調査地点、評価基準について説明した。</li> <li>・ 調査を行う項目は、水質、濁度、水位、堆積土量、新河道の状況、左右岸湿地の流入頻度、定点カメラ、ドローン空撮による植物、植生断面、水生生物、昆虫類、ホタルの分布、カワニナ、両生類、トキの飛来状況、住民による自然再生エリアの利活用状況である。</li> <li>・ トキの飛来状況調査における定点カメラ撮影については、トキの飛来羽数が多い期間（6～12月）において2mカメラと4mカメラを同時に撮影することで各カメラの情報の紐付けを図る。</li> </ul>
5 今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和14年度のモニタリング終了後にアドバイザー会議を開催する予定であるが、モニタリングの内容については、毎年の結果を取りまとめてアドバイザーの皆様へ報告する予定である。</li> <li>・ モニタリング開始前に、物理調査と生物調査を行う各調査主体間で意見交換を行い、調査内容や取りまとめ方、最終的なゴールの形について合意形成を図りたい。</li> </ul>

■アドバイザーからの主な意見・助言

【モニタリングの目的と事後調査期間】

- ◆湿地形成後は湿地内の水温も計測した方がよい。
- ◆旧河道を埋め戻す際は、深い所を残すと水温が高い時の逃げ場となるので計画的に行うのがよい。

【モニタリングの評価方針】

- ◆環境の変化による生物の応答を評価するために、面的なハビタットマップを毎年作成し、動的な視点を評価手法に組み入れた方がよい。
- ◆現在の評価体制では、物理環境調査を担当する新潟県と、生物調査を担当する評価者が、互いに情報共有をせず個々に評価している状況なので、最終的なゴールの形を確認して進めるべきである。

【モニタリングの調査手法と評価基準】

(水位調査)

- ◆費用的な負担が少なければ、湿地の下流端に水位センサーや水温センサーを設置できるとよい。
- ◆洪水調節効果があるかという評価視点を加えた方がよい。

(カワニナ調査)

- ◆自然再生エリア内の調査地点は、湿地が創出された現地の状況に応じて箇所数の増を検討するのがよい。

(トキの飛来状況調査)

- ◆AIで画像解析ができれば、撮影頻度を増やしてトキの飛来羽数カウントができるのではないかと。
- (ドローン空撮による植物調査)

- ◆平面的な植生に加え、各群落の植生高についても調査し、評価基準に含めた方がよい。

【今後の予定】

- ◆天王川自然再生エリアを重要な自然共生の場としてきちんと位置付けを行い、工事後も持続的な管理が可能となる仕組みをぜひ作ってほしい。
- ◆今後はモニタリング等を行うためのアドバイザリー会議となるので、メンバーや規模を再考し、ネットワークが軽い形に再編してもよいのではないかと。
- ◆モニタリング期間中でもアドバイザリー会議が柔軟に行えるよう、開催の体制も検討してほしい。
- ◆新潟県として象徴的な事業であり、日本の中でもモニタリングや検討に長い時間をかけてきた事業なので、ぜひこの取り組みを広く一般に公開して、多くの人が目にするようになるとよい。
- ◆環境省との情報共有も密に行ってほしい。

(担当) 新潟県佐渡地域振興局地域整備部

計画調整担当 : 0259-74-4040

河川・砂防課 : 0259-74-3530